

# 【おおみや教会通信】 10月号 2021.10.17

酷暑の夏がようやく終わり、日ごとに秋が深まってまいりました。8/8から9/26まで主日のミサが中止されていたため、おおみや教会通信も2か月間お休みしました。まだまだ感染症対策が必要で、相変わらずグループ割ですが、教会に集い、共にミサに参加できることは大きな喜びです。神に感謝。

## <信徒委員会からのお知らせ>

### 1. 10月の主日のミサについて

新型コロナウイルス感染症対策として引続き現在の3グループによるローテーションを継続します。

月	日	曜日	グループ	司式
10月	17日	(日)	B	ジャック神父様 (第3日曜日)
	24日	(日)	C	谷神父様 (第1、第4日曜日)
	31日	(日)	A	齋藤助祭 (集会祭儀) (第2日曜日)

※谷神父様は現在大宮、上尾、館林の3教会を担当されています。

今後第2日曜日は齋藤助祭による集会祭儀、第5日曜日は谷神父様、齋藤助祭、矢吹助祭が交代で担当され、谷神父様の時はミサとなります。

<b>A</b> グループ	大宮区・西区・中央区・桜区
<b>B</b> グループ	見沼区・北区
<b>C</b> グループ	岩槻区・伊奈・原市・白岡・蓮田・久喜

※11月の予定は決まり次第、  
連絡網で回します。

### 2. 総務部の受付奉仕について

10月より以下のように再開しています。

木曜日・日曜日 午前10時～午後2時

### 3. 2022年カレンダー・手帳の販売について

大宮教会所属でサンパウロにお勤めの山野井さんのご厚意で、今年も教会で申し込み・受け取りができます。

専用の申込書にご記入の上、申込用封筒に代金と共に入れて受付にお持ちください。

締切りは **11月14日(日)**、受け取りは11月以降、ご用意でき次第受付で保管しますので、順次お受け取り下さい。

### 4. 営繕部より

2階のベランダに敷いていたウッドデッキが腐食してきたことを受け、撤去し、さいたま市が燃えるごみとして回収できる大きさに切断し、紐でくくって司祭館の門付近に積んであります。お車でお越しの方で廃棄にご協力いただける方は、ひとくくり持ち帰り廃棄をお願いします。

## 5. 食料支援について

皆様からご提供いただいたお米、パスタ、缶詰などの食料品、募金についてはコロナで失業され、困っている方にお送りしてきました。募金についての経過は以下の通りです。

コロナ禍における食料支援送料等献金収支報告			2021年2月15日以降	
カトリック大宮教会信徒委員会				
			2/15残高	38,608
年月日	明細	収入	支出	差引
2月28日	食料品買い足し		7,128	31,480
2月28日	宅配便2個口 @1,410円×2個		2,820	28,660
3月27日	献金	3,000		31,660
3月28日	献金	6,000		37,660
3月28日	食料品買い足し		10,891	26,769
3月28日	宅配便2個口 @1,410円×2個		2,820	23,949
4月29日	宅配便4個口 @1,410円×2個+@1,190円×2		5,200	18,749
5月23日	宅配便3個口 @1,350円×2個+@1,590円×1		4,290	14,459
6月26日	宅配便3個口 @1,130円×2個+@1,350円×1		3,610	10,849
7月23日	献金	32,943		43,792
7月25日	献金	14,906		58,698
7月25日	宅配便2個口 @1,410円×2個 (マルコの家へ)		2,820	55,878
7月25日	食料品買い足し		16,897	38,981
7月25日	宅配便4個口 @1,410円×4個		5,640	33,341
8月29日	食料品買い足し 4,899円+7,198円+1,818円		13,915	19,426
8月29日	宅配便3個口 @1,350円×3個		4,050	15,376
9月29日	宅配便3個口 1290円+1510円+1510円-480円		3,830	11,546
			残高	11,546

マルコの家にはパスタを中心に送付し、大変感謝されました。谷神父様・ジャック神父様からは、引き続き支援を要請されています。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

## サモア～主に呼ばれて

(2)



「海外にボランティアに行く！」という気持ちがどんどん強くなってきてはいたのですが、さて帰ってきてからどうする、という問題は残りました。大学は教育学部で教員しかできないことがないので、少しでもチャンスを広げるために、通信教育で小学校の教員免許を取ることにしました。夏休みにスクーリングがあり、大学に何日か行かなければならないのと、少しでも信徒宣教者会にかかわっていたい気持ちがあり、1989年の夏休み中は、明大前にある信徒宣教者会の事務局兼研修所にいさせてもらいました。

ここは、松原教会の敷地内にあります。教会は淳心会の教会で、オリエンズ宗教研究所と松原教会、信徒宣教者会の事務局兼研修所が同じ敷地にあります。信徒宣教者会が使っていた建物も、もとは純心会が運営していた学生寮だった建物を借りていました。ですので、食堂や風呂は広く、2階にも会議室がありました。個室は狭いのですが、寝るのには十分な広さでした。

この年から横浜教区の野村神父が担当司祭となり、元派遣者の長嶋さんが事務局員として活躍していました。長嶋さんはバイタリティーあふれる人で、海外から日本に信徒宣教者として来ている人たちと交流を始めていました。

また、夏には海外から来ているカトリックの人を招いて持ち寄りパーティーを行うなど、いろいろな方と交流することができました。

また、この年に初めて海外で体験学習が行われました。信徒宣教者会から派遣されているボランティアを訪ねて、実際にどんな活動をしているかを知ること、そのあとの派遣につなげるという企画です。

私もこの体験学習に参加して、8月の下旬に2名の派遣者を訪ねてフィリピンに行ってきました。一人はマニラから飛行機で1時間ほどのパナイ島の中心であるイロイロで、スラムの共同体の看護師として働いていました。

このスラムは少し雨が降るとすぐに水が溜まりだします。私たちが泊めてもらったところでも、ちょっと雨が降ったあとは建物の中に水が浸水してきました。衛生状態は大丈夫なのだろうかと心配になりました。ただ、水は比較的きれいで、シャワーはないのですが、なんとか水浴びはできました。

小教区のミサに与ることもできました。歌もたくさんあり、にぎやかで明るいミサでした。ここでは司教様を訪問したり、ドールのバナナ園を見に行ったりしました。その後、セブ島経由でミンダナオ島のダバオまで飛行機で行きました。

フィリピンはたくさんの島から成っている国なので、そんなに遠くなくても飛行機で行く必要があります。ダバオは南部の中心地で大きな町です。

ダバオからバスで3時間、そこから乗り合いバイクで30分くらい行ったミンダナオ島の奥地で、もう一人は農村指導をしていました。ここは、きれいな水が得られません。簡易の井戸はありましたが、水は濁り水。水浴びもためられるような水です。衛生状態もあまりよくないようでした。

でも、みんな笑顔でこの開拓地で一生懸命農業に取り組んでいました。気温が一年中高いため、1年に3回お米が収穫できるそうです。フィリピンは、カトリックが多いのですが、ミンダナオはイスラム教も多いそうです。治安もあまりよくなく、外国（日本）から来た安全な人間という証明のために、地元の警察に行ったりもしました。

派遣者の訪問を終えて、ダバオではホテルに泊まりました。安いホテルですが、お湯のシャワーだったのでうれしかったです。それまでは、ずっと水のシャワーや水浴びのみだったので、蛇口からお湯が出るだけで、感動です。

マニラに戻り、スラムやスモークマウンテンというところを見学したり、反対に高級ホテルのラウンジでお茶を飲んだり、とフィリピンの貧富の差を知る体験をしました。

スモークマウンテンはマニラのごみ捨て場の上でできたスラムで、ごみが腐敗する過程で熱が生まれ、煙があらこちらから上がっているところです。ごみは3メートルくらいに積まれ、そこからお金になりそうなものを拾って、売って生活をしている人がたくさん住んでいます。また、開発のために自分たちが住んでいたところを追い出され、海に張り出して作った家が並ぶスラムもあります。かたやどこからどこまでかが分からないくらい大きな敷地に住む大金持ちもいます。

この体験学習では、多くのことを学ぶことができました。ぼったくりタクシーや一緒に行った人のかばんから1万円が盗まれたり、引率で来ていた事務局の人のカメラがジプニーという乗り合いバスの中で盗まれたりと、良くない出来事もありました。でも、フィリピン人のホスピタリティー（心のこもったもてなし）には感激しました。（つづく）



見沼区 斉藤

## ♪ オルガニストのつぶやき ♪

～ いっしょに弾きませんか ～

「どうしても」と言われ、私が日曜日にオルガンを弾くようになった時は、専門に勉強されたオルガニストが数名おられました。その陰に隠れるように、たまに来る自分の担当日をときどきしながら迎え弾いていました。

ところがオルガニストの転出等が続き、気がつけば大宮教会のオルガン担当者は二人に。しかもコロナ禍の為、ミサの参列者は歌う事を許されない上に、換気のために聖堂の戸を全開にするので、大きめの音で演奏しなければならず、どうしたものか、と驚きと責任の大きさを感じました。

考えてみれば、オルガンを弾かせて頂くようになるには、いくつかの私への言葉かけ、働きかけがあったと思います。子育てが一段落し再開したお稽古を、よほどの事が無い限りつづけなさいね、と母に言われた事。そうは言ってもだんだんと長時間の練習が必要となり、迷いが生じてきました。そんな折、共同回心式にいらした神父様にお話ししたところ、「神様はそんな心の狭い方ではありません。安心してお続けなさい」と仰って頂いた事。親しくしていた方の追悼ミサに、ご主人が毎年私にオルガンを弾く機会を与えて下さった事。また日曜日のミサで弾くようになってから、毎回と言っていい程間違え、気にしている私に「完璧でなくても良いのよ」と励まして下さった方。谷神父さまには、「演奏会ではないから大丈夫!!」と。こうして多くの励ましに支えられてきました。

「神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。神さまがお与えになった力に  
応じて奉仕しなさい」(一ペトロ4・10)

「少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう」(マタイ25・21)

とあるように必要以上に尻ごみせず飛び込んだ事で、少しずつ弾けるように力を与えて頂いていると思います。

今は喜びのうちに祈りとなるように弾けるように、そして何よりもコロナが収束して、皆で賛美の歌を聖堂に響きわたらせてミサにあずかれる日が早く来る様に祈る毎日です。

立派なオルガンがあるのに、オルガン担当者が二人だけ。しかも一人は後期高齢者、というのはあまりにもさびしいです。ピアノを習っておられる方、習っておられた方、どうぞ手をあげてください。

少しずつ慣れて行けば大丈夫。神さまと皆さんが支えて下さいます。

それに典礼や詩編の理解もより深まり、練習が神さまとお話する時間にもなる



思います。若い方に育っていただきたいのです。

よろしく申し上げます。

見沼区 徳良

\*投稿を募集しております。FAX か郵送で受け付けております。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 カトリック大宮教会 広報随院